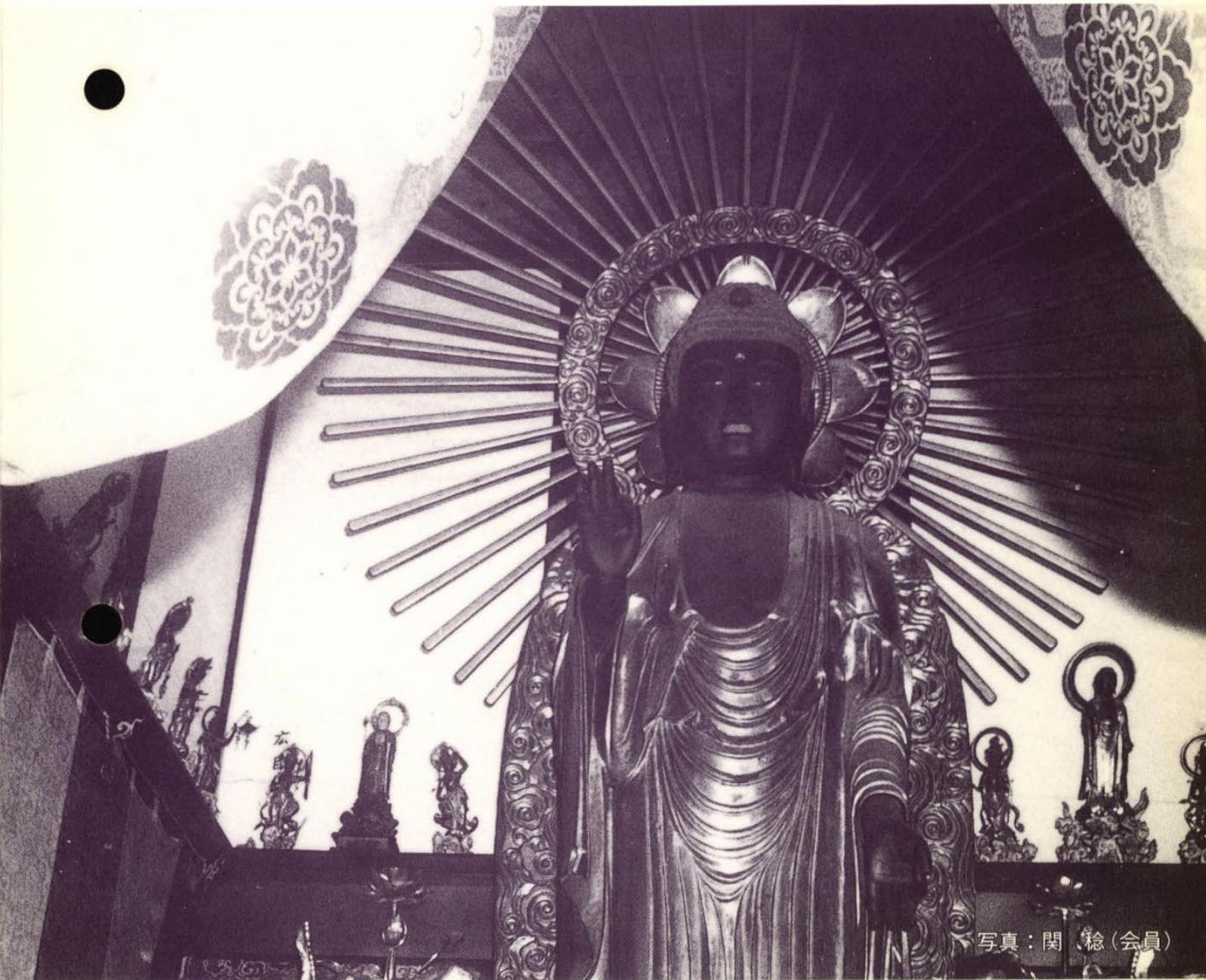


金澤北ロータリークラブ



写真：関 稔(会員)

■金沢 ■北郊 ■散策

丈六大仏阿弥陀如来像

(玄門寺) 東山二丁目

卯辰山寺院群の入り口にある玄門寺は、寛永10年(1633)甲斐の僧、玄門が開祖で総本山は京都・智恩院。当寺には一丈六尺(8メートル)の阿弥陀如来像がある。上杉謙信の軍兵が本尊を破壊したが、謙信の望みにより後世(1758)仏像を建立、年来の志を遂げた。像の衣には金箔が施され天井には狩野東洋の手による龍が描かれている。東洋は仙台伊達藩絵師に赴く途中加賀に立ち寄り描いたとされる。

私の名刺

榎 並 誠



このたび、安宅雅夫様並びに渡邊聰様のご推薦と会員諸先輩のおかげをもちまして、名誉ある金沢北ロータリークラブの一員に加えて頂きましたことに、厚く御礼申し上げます。ご多忙の中、山上会長様をはじめ修練委員の皆様から、お教え頂いた「ロータリーの綱領」などを一刻も早く、真に自分のものにし、クラブの一員として貢献できるようにしていきたいと思っております。

私は東京生まれですが、父が倉庫会社に勤務していた関係上、神戸、小樽、横浜などの港のある町を移り住んできました。若い頃に色々な土地の人との出会いを経験したおかげで、見知らぬ土地へ行っても、人見知りすることなくお付き合いできる性格に育った気がします。大学卒業後の就職先としてNTT（当時の電電公社）を選んだのは、倒産することのない安定企業という側面もありましたが、国民全体に役立つことに従事したいという、多分奉仕の精神が心の中にあっただらだと思っています。

現在の仕事は、県間通信を扱っています長距離通信事業本部の北陸ブロック（石川県、富山県、福井県）の経営をまかされています。金沢の地は初めての経験であり、まだ北陸の文化、歴史、経済などについて充分理解しておりませんが、電気通信事業を通じて北陸ブロック全体の発展に貢献できればと思っております。

自分の信条として、常にどんな場面においても「清く正しく」をモットーに過ごしてまいりました。今回、ロータリークラブの会員となるのは初めてですが、皆様のお仲間として恥じることはないよう務める所存であります。どうかよろしく願い申し上げます。

以上



私の「タイガイ・グズ」物語り 山岸 節夫

私は、北クラブの語り部（かたりべ）といわれており——ある心ない人達からはタカリベだといわれ憤慨しております——史部（ふみべ）の役をおおせつかるとは思ってもいませんでした。ところが与えられた題が私の得意中の得意の“ゴルフについて”とありましたので、スラスラと筆を進めた次第です。

時は平成3年、真夏。所は片山津ゴルフクラブチャンピオン“白山コース”最終18番ロングホール 第3打地点。

状況は、日陰プロ2ボギー、タイガイ・グズこと山岸1バーディ・2ボギーで、1ストローク差。風はなし。ジリジリ照りつける真夏のフェアウェイ。ピン位置は、左の深いアリソンバンカー越えの左サイド・センター。残り105ヤード。100ヤード表示から歩測をし、打ち上げ分をキャディさんに確かめた日陰プロ、8番アイアンを手に取り、きれいなスイングでショット。柔らかく上がったボールはバンカー越えにナイス・オン。ピン下3mの上りライン。それを見た1ストロークリードのタイガイ・グズ、残り95ヤード九番アイアンでフルショット。「アッ」力んだショットは引っかけりぎみでピン左上横6mにオン。「シマッタ！」気持ちの動揺を抑えながらのファースト・パット。下りスライスライン。左に大きくふくらませ、ボールに触るだけ。スーッと転がったボールは加速がつきカップを30cmオーバー。「ホッ」「お先に失礼」でカップイン。グズ「パー」

そして日陰プロ。もうここはバーディしかない。カップ半分上りフックライン。じっくり時間をかけ、前から、横から、後ろからラインを読む、日陰プロ。打った！ツーツー、カップ目がけてラインに乗り、ボールが転がる。「ヤ、ヤー」無情、ボールがカップの縁をなめ、一個分外にこぼれる。ドッと汗がふき出る。戦いは終わった。

日陰プロ、グズに歩み寄り握手を求め「山岸さん、ありがとう」

この時ばかり、グリーン上の二人の間にはさわやかな秋の風が吹いているように感じられた。

あたかも今プレーしているかのようにあざやかに思い出すのは、女子プロ日陰厚子さんと、ハーフだけ一緒にしてもらったあるコンペの最終ホールの様子なのです。

ゴルフをやられないご年配の会員には日陰さんとはどんな方かはお知りにならないでしょうが、そうです、女優でいえば、原節子か高峰三枝子のような存在だと思っていただければよいでしょう。その女子プロとの同伴プレーで、ハーフ 日陰プロ38（2ボギー）タイガイ・グズこと山岸37（1バーディ・2ボギー）1ストローク勝ったのです！！

この話を聞きつけ、木村丹二会員が7RCゴルフコンペのため北クラブの有力新人戦力にせんと、スカウトに足を運ばれた次第です。しかし、木村スカウトには大きな情報収集ミスがありました。それは、アトのハーフのわたしのスコアを調べなかったことです。ちなみに「47」。入会してからの私のゴルフは殆ど「47」レベル、7RCゴルフコンペの成績には一度も貢献しておりません。



あのスコア「37」は何だったのでしょうか。

真夏の夜の夢だったのでしょうか。

遠い日の花火だったのでしょうか。

私の「タイガー・ウッズ」ならぬ「タイガイ・グズ」物語りでありました。

語り部の拙い文章をよく読んでいただき、ありがとうございます。 愛読深謝。

※タイガー・ウッズ

アメリカゴルフ界に彗星のように現われた21才の天才若手黒人プロゴルファー。

今年のマスターズトーナメントに新記録づくめで優勝した。

